



2026「3.8国際女性デー宮城県集会」

日 時：2026年3月8日（日）10時00分

場 所：東京エレクトロンホール宮城602

次 第

1. 開会 佐藤 珠理（連合宮城女性委員会事務局長）
2. 実行委員長あいさつ 宮川 則子（連合宮城女性委員会委員長）
3. 基調講演
演題：女性と防災
講師：緑上 浩子さん（SBL 仙台市地域防災リーダー）
4. 質疑応答
5. 集会アピール採択 笠原 知子（連合宮城女性委員会事務局次長）
6. 閉会あいさつ 樋川 つや子（I女性会議宮城県本部議長）
7. 閉会



[3.8国際女性デー宮城県行動実行委員会]
立憲民主党宮城県連合
I女性会議宮城県本部
連合宮城女性委員会



講師 緑上 浩子さん プロフィール

いわきり防災エンパワーメント
岩切地区町内会連合会 SBL (仙台市地域防災リーダー)
宮城県防災指導員

集会アピール (案)

3.8 国際女性デーは、1857 年にニューヨークの被服工場火災で多くの女性が亡くなったことを受け、低賃金・長時間労働への抗議が起源と言われています。1908 年には、女性労働者たちが賃金改善と婦人参政権を求めて「パンとバラ」を掲げデモを行い、この日は女性の政治的自由と平等のための記念日と位置づけられました。賃金・労働条件を表す「パン」と、女性の尊厳・人権を表す「バラ」をシンボルに、世界各国でイベントや運動が行われています。

今年の 3.8 国際女性デー世界共通テーマは、“Give To Gain (与えることで得る)”です。多様な視点や経験を与え合い、ポジティブな循環を生み出すことをめざすものです。自組織で解決できない課題は、仲間の声を政策実現へつなげ、私たち自身で社会を変えていく意識を持つことが必要です。

日本は、1985 年の男女雇用機会均等法の制定から 41 年が経過しました。連合も 1991 年からジェンダー平等に関する取り組みを進めて約 36 年、少しずつ前進してきましたが、皆さんにとって「女性を取り巻く環境が変わった」と実感することはあったでしょうか？ 2025 年のジェンダーギャップ指数において、日本は 148 カ国中 118 位と前年と同順位に留まり、世界的にジェンダー平等の取り組みが遅れています。一方で、2025 年 6 月に女性活躍推進法が改正され、2026 年 4 月からは従業員 101 人以上の企業において「男女の賃金の差異」および「女性管理職比率」の公表が義務化されます。企業における男女格差の実態が可視化され、具体的な改善への一歩が期待されています。

2026 年 3 月 11 日、東日本大震災から 15 年を迎えます。あの災害は、避難所運営や復興の意思決定に女性の視点が不足していた課題を浮き彫りにしました。防災・減災の現場において女性の参画を拡大し、多様なニーズに応える仕組みづくりが求められています。

2024 年 10 月 29 日に国連女性差別撤廃委員会が日本政府に行った「選択的夫婦別姓制度の導入」や「米軍関係者による性暴力対策と被害者支援」などの 9 項目の勧告を日本は履行していません。勧告に従い、行政・立法・司法の場で早期に実現するよう求めます。

私たちは、この「3.8 国際女性デー 宮城県集会」において、ジェンダー平等の推進、多様性を認め合う社会の実現に向けた取り組みをさらに加速させていくことを確認しました。本集会に結集した皆さんの力で、性別・年齢・国籍・障がいの有無・就労形態などにかかわらず、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合う、公正な職場・社会を実現していきましょう。

2026 年 3 月 8 日

3.8 国際女性デー 宮城県集会